

(1) 教材名： ひっこしてきた みさ

(2) 本時の目標： (五)の場面を読む

村内各学校で、新任で赴任にされた先生方への互見授業が行われている。安波小でもN先生が、親任された先生方に授業を準備してくれた。クラスの状況は去年とかなり変わった、新1年生の女の子2名は入学してまだ間もない、文字や言葉の勉強もまだ教育課程の中にはない状況である。さらに2年生の男の子は4月からの転入生である2年生の3名の女の子は、去年からN先生と「学び」スタイルの授業を進めてきた。さて、この状況下の中でN先生がどう文学の読み、「学び合う学び」に挑戦するか？私も慎ましく謙虚に「学ばさせて」頂きます。



右写真、新任の教頭先生と、大城先生、それと安田小の新任の先生方が授業を観に来てくれました。というより「拝見させて下さい」という気持ちで参観しているところが素晴らしい。共同体という「授業者に敬意を払い、謙虚に「学ぶ」である。」これからもおおいに互見授業等で教師が互いに学び合い、同僚性を高められることを期待します。

☆文中の児童生徒の名前は全て仮名である。



「ようこそ安波小学校へ」

温かく迎えられるのが子ども達だけであってはいらない。今年度学級増で職員も増えた。3名の先生方、よろしくお願いします。へき地校の先生が、ただの先生で居られないことを多に楽しんでください。



新垣進校長の応接室である。校長先生の経営方針の姿勢がうかがえる。24年度の子どもの頑張りがすべて飾られている。周囲3面すべて子ども達の写真である。難しく読めない書道よりも「温かさを感じる」部屋です



職員室玄関の壁です。以前に職員室の様子をお伝えしましたが職員室の玄関にも提示されています。来客や保護者の訪問があった時など、すぐ説明できるのではないだろうか。

0:00 しっとり静かに授業開始 読み (各々音読1回 → 指名読み2年生4人)



写真①

各々音読から入る。写真①の女の子は1年生、言葉と文字がまだ一致しない(かなり厳しい)。教師が寄り添って一緒に2年生の読みに合わせて指でなぞっている。もし多数の普通学級に在していれば、支援を要するレベルであると考えるのが普通である。写真②、奥の1年生を支援する2年生である。N先生がいないところでは、すべて2年生が1年生をケアしている。美しい、素晴らしい、なぜできる。『支え合う』である。



写真②

【 文学の読みに欠かせない大型教科書の提示 】

前年度より安波小を始め村内の小学校でこの大型教科書を使っての国語の読み取りが進められている。欠かせない教材用具である。とくに、子ども達が学習を振り返るときや、登場人物の心情の変化などを読み取る時には活用効果絶大である。授業終了後にすべての資料は拝見させてもらったが、どの場面でも子どもたちの作品への「入り込み」や登場人物への「思い入れ」がひしひしとうかがえた。ほんとにすばらしい教具である。



低学年は、くっつけばくっつくほど安心すると言われている。話す声も耳を寄せないと聞かないほどの声量の子である。授業終盤に素晴らしい発言を発してくれた子である。(教師のリボイスによる)

【教科書への書き込み】 10:00~



写真③

写真③、入学してまだ間もない。(奥)1年生のあやめさんも、お姉ちゃんたちのまねで教科書に線を引く。「まねび」である。2年生の女の子たちは去年からの学習スタイルでやっているの、何の迷いもなく、書き込みが淡々と進められる。授業開始から読みに10分、書き込みに10分。これからの「学び合う学び」の準備がされる。教科書を見せてもらおうと2年生はさすがである。



4月からの転入生の男の子書き込みも初めてである。教師と一緒に寄り添ってあげる



21:00 ~

教師：さあ、お話聴かせて。語る、語る。「たぶん」「だから」「そうなんだ」自分の言葉で仲間の話もしっかり聴きながら、自分を語る。文学に親しみ、「学び」が深まる。

教師：しんや君は怒っていたに どうしてだっこさせたの？
教師：どうして仲良しになった んだろう？

子どもたちは惜しみなく自分の考えを語る。終盤には、初めての自分たちの出会いを語った。生活につながるである。「やっぱり聊すかしかったよね」…「名まえ聞かないと友達になれないよね。」程よいタイミングで教師がテキストに戻す。



写真④

40:00 ~

写真④、全体共有の終盤。ゆめさんがボソボソと小さな声で教師に語った。男の子はシロがみさのほっぺたをべろべろなめるのを見て「シロじゃなくてなくて トチでもいいよ」と言ったんじゃない。

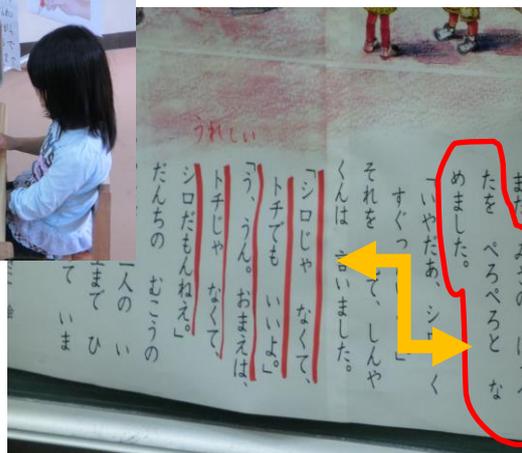
男の子「トチでもいい」

みさ「シロだもんねえ〜」
言い分が逆転している。男の子がミサを認めたのは、「子犬のシロの様子を見たからだ」と語った。全員「ああ〜」である。子犬が二人の仲を取り持ったことをこの様子から読み取ったのだ。

【子どもの気づき】

子どもの気づきや発想が教師を超える時。

その子なりの読みが大切にされる時。



授業終末【読み】教師：みささんやしんやさん、シロの気持ちになって読んでみようか？(淡々と話す)しっとり、心が込められて読まれる。字の読めないはずの1年生もなぜか声を出している。

明らかに、授業最初に読んだ時の「読み」方と違っている。「…シロだもんねえ〜」表現のしようがない声に感動する。・・・私の言葉が出ない。

教師：「みさとしんや 学校で会った時 どんなお話し したと思う。」…明日の課題につなげる。

【以下後日の語りである】

- きのうは ごめんねって言ったと思う。
- 今日も昨日みたいに一緒に遊ぼうね。
- みさとしんやとシロは大の仲良しになった。

これも生活につながっている。教科書には何も書かれていない場面である。おそらく自分たちの経験から語ったのだろう。

この子たちはいつでも私に感動を与えてくれる。私が癒される風景を見させてくれる。感謝！

国頭学びの会ゆい